

佳作

きょう力すればなんでもできる

荒川区立汐入東小学校二年

園田 咲香

やなぎ田先生、こんにちは。

わたしは、「こわれた一〇〇〇のがつき」という本を読みました。この本を読んだりゆうは、おもしろそうない名だったからです。

この本は、たいこやトランペットなどのこわれたがっきたちがしゅ人ここのもの語です。一〇〇〇のがっきたちは、こわれているけれど、月に「こわれてなんかいません。」と、うそをついてしまいました。このぶ分を読んで、自分とにているなと思いました。なぜなら、わたしもできないことやしっぱいしたことは人に言いたくないからです。

わたしがこの本を読んで、一ばん心にのこったことは、自分のこわれているぶ分やほかのがっきのこわれているぶ分をたすけあい、きょう力しあつて一つのがつきになり、音楽をかなでたところです。わたしは、このばめんを読んで、お姉ちゃんややっているバレーボールというスポーツに、にてるなと思いました。なぜなら、バレーボールも六人でやるチームプレーなので、自分やみんなのとくいなところやふとくいなところをカバーしあい、たすけあうスポーツだからです。たとえば、お姉ちゃんは、ボールをひろうレシーブはにがてだけど、こうげきはとくいなので、ほかの五人ときょう力してしあいをしています。おなじようにがっきたちもきょう力しあい音楽をえんそうすることができました。

わたしは、この本から、自分にかけているぶ分があつたとしても、みんなできょう力すれば、せいこうにつながるということを学びました。また、一ばん一つにまとまるのは、たすけあっている時だということも学びました。なので、これからわたしも、一〇〇〇のがっきたちのように、スポーツだけでなくいろいろなところで、みんなとたすけあつていきたいなと思いました。

く 柳田邦男先生からのメッセージ

『こわれた一〇〇〇のがっき』は、とてもおもしろいし、気づかされることの多い絵本ですね。今の時代は、いろいろなものがたくさんあつて、ものがこわれたら、つい新しいのを買いばいいと

思いがちです。

園田さんがいちばん心にのこったこととしてあげているのは、いろいろな楽器がそれぞれにこわれているところをおぎないあつて演奏することで、オーケストラのようにすばらしい音楽をかなでることができたところですね。

しかも園田さんは、こわれた楽器でもきょう力しあえば音楽をかなでられるということを、楽器のことだけでなく、スポーツでも、ほかのいろいろなことでも、メンバーの一人一人は、それぞれに不得意なところがあつても、得意なところを生かしてきょう力しあえば、せいこうにつながるのだということにまで、考えをひろげていますね。

とても大切なことに気づいたといえます。